

# 雪国の古木探訪記 (3)

刈屋 寿

## 7. イヌザクラ *Prunus buergeriana* Miq.

(新潟県三島郡寺泊町野積)

山地に生える落葉の中高木で、本州・四国・九州と朝鮮の済州島にも分布するという。

県内の分布は広く散発的に見られるが、主に福島県から阿賀野川ぞいに点在し、弥彦山塊から佐渡ヶ島に飛ぶ横一文字の分布形態を示す。

イヌザクラは普通高さ10m直径15cmほどで、最大のもののは高さ15m直径40cmになるという。県内に見られる樹も標準的なものが多い、そんな中で最大級に匹敵するものが寺泊町野積に生育している。場所は野積集落よりミイラで有名な西生寺へ行く車道わきで海拔100mである。

樹は根元より2本立で径20cmほどの太いフジが食い込むようからみ付いており、下から4m位までの樹の隙間は10cmほどである。

[樹相]

根周り：239cm (直径76cm)

東側幹周：80cm (直径25.5cm)

西側幹周：135cm (直径43cm)

樹高：13m

東側のはフジが食い込んでいるため地上1.5m。

西側は地上1.3mの計測。

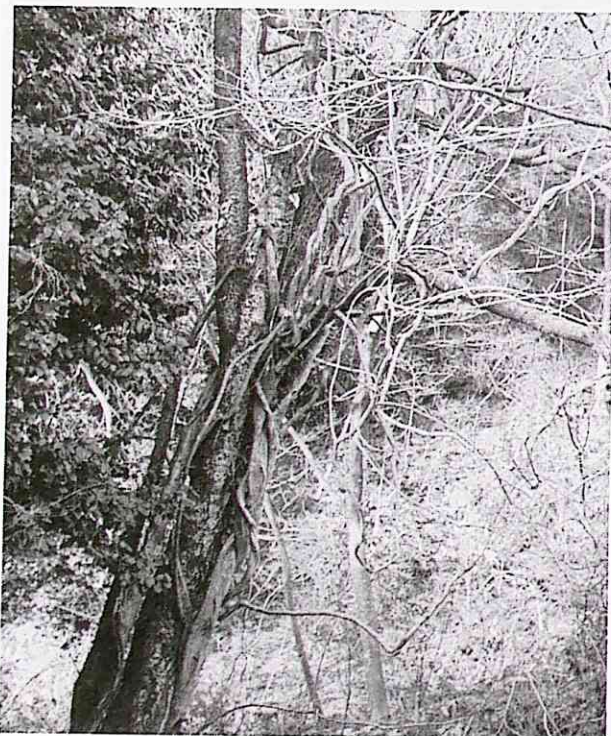


写真1 寺泊町野積のイヌザクラ (1996 1 7)

## 8. ハリギリ *Kalopanax pictus* (Thunb.) Nakai

(新潟県西蒲原郡弥彦村観音寺)

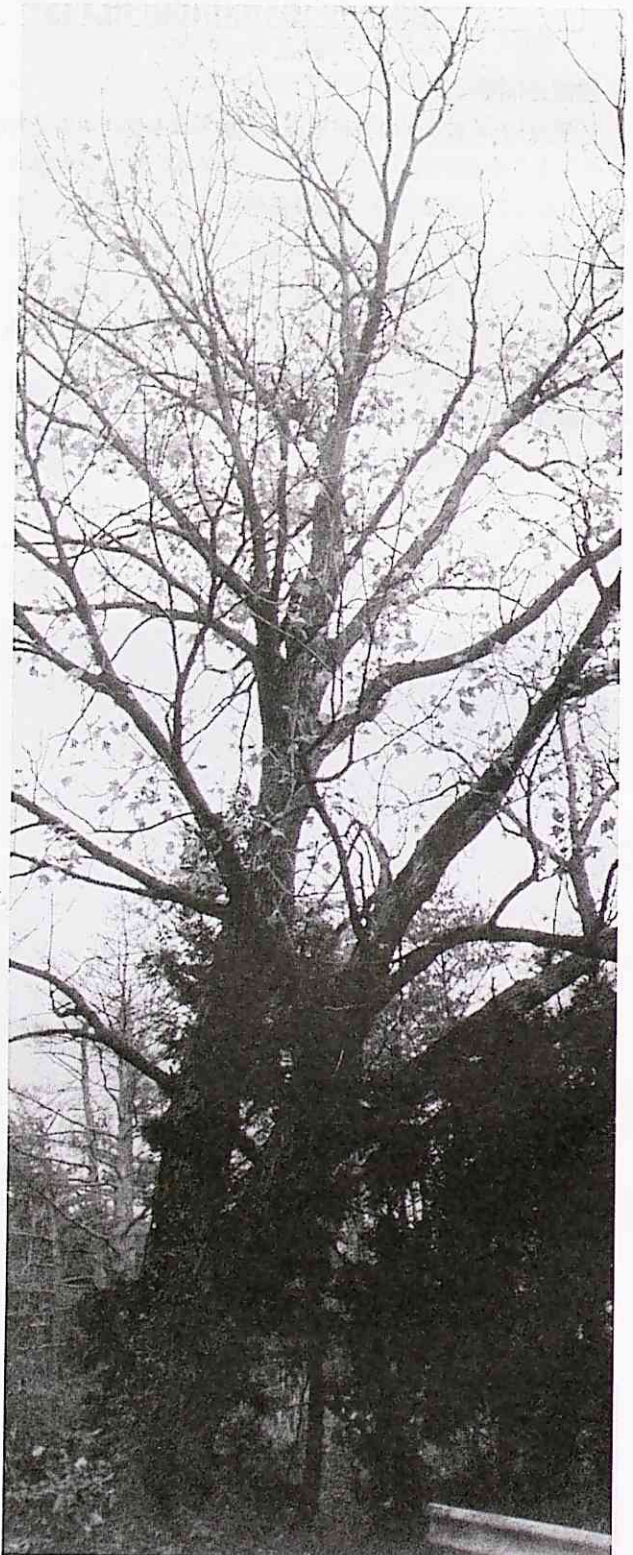


写真2 観音寺のハリギリの巨木(1993 11 20)



北海道から九州までの山地の林内に生え、国外では千島南部・樺太・朝鮮・中国に分布する。県内でも2300mに及ぶ高山まで広く分布している。

樹は最大で高さ30m、直径1mにもなるといわれるが、山地のものは燃料用として伐採された経過もあってあまり大きなものはない。平野部の神社、寺、民家の屋敷などにはかなり大きな樹がみられるが巨木とは言えがたい。

ここで紹介する弥彦村観音寺に生育している樹は巨木である。場所は観音寺から野積へ通じる車道のわきで、車道建設の際まわりを1mほど掘り下げ整地された、しかし巨木であったためか伐採は免れている。

計測の結果は次のようである。

[樹相]

地上1.3mの計測

幹周:350cm(直径111.5cm)

樹高:20m

9. エゾユズリハ *Daphniphyllum macropodum* Miq.

var. *humile* (Maxim.) Rosenthal

(新潟県西蒲原郡分水町国上)

北海道・本州(中部以北)の日本海側に分布し、ふつう高さは1~2mである。枝に粘性がありしなるため、ユキツバキ、ハイイヌガヤ、チャボガヤなどと共に積雪に耐える日本海要素の植物である。

県中部に位置する弥彦山塊には、海に面した西側斜面で季節風の当たらない凹地などに、樹高5~6mに伸びた直幹の樹が所々に見られる。これらはいずれも葉が短く、側脈も少なく根元の直径が5cm前後と細い。また容易に幹を曲げることも出来るためエゾユズリハと思われる。

この弥彦山塊南部にある国上山の山中にエゾユズリハと思われない樹がある。場所は越後最古の古刹といわれる国上寺の境内で、本殿東側にある代々の住職の墓が並ぶ所の斜面に生えている。

寺の人の話でも植えたものではないらしく、樹の形や葉の形態から考えてエゾユズリハとして報告する。

[樹相]

地上10cmの計測幹周:64cm(直径20.5cm)

地上1.3mの計測

幹周:40cm(直径12.7cm)

樹高:8m

生育地付近にはシロダモ、アカガシ、ウラジロガシ、ヤブツバキ、アイアスカイノデ、シャガなどの暖地系の植物、ハイイヌガヤ、チャボガヤなどの日本海要素の植物が見られる。

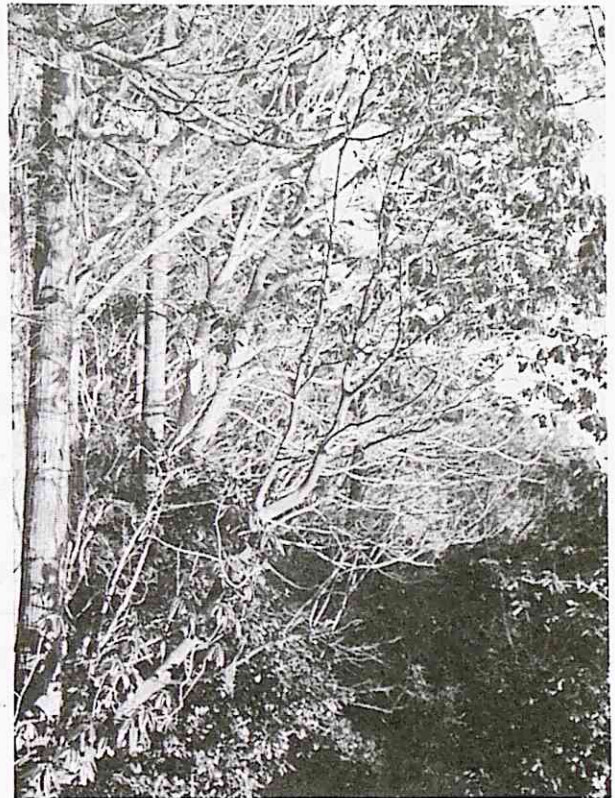


写真3 国上寺のエゾユズリハ(斜上している樹)

(1996.1.2)

[文献]

- (1) 大橋広好, 羽山泰一, 大場秀章(1989), バラ科「日本の野性植物・木本I」189, 平凡社
- (2) 大場秀章(1989), ユズリハ科「日本の野性植物・木本I」272, 平凡社
- (3) 山崎 敬(1989), ウコギ科「日本の野性植物・木本II」120, 平凡社
- (4) 関 繁雄(1983), 新潟県植物分布図集第4集:181, コーエイ印刷
- (5) 竹内紀夫(1981), 新潟県植物分布図集第2集:183, コーエイ印刷
- (6) 柄沢朋暢(1986), 新潟県植物分布図集第7集:247, コーエイ印刷
- (7) 吉山 寛(1992), 落葉図鑑 文一総合出版